

担当者紹介

■設計監理担当

(株)久慈設計 取締役専務執行役員
建築設計本部 統括本部長

一級建築士
高橋 重人



■設計監理担当

(株)久慈設計 建築設計部
技師

金田 一 遥



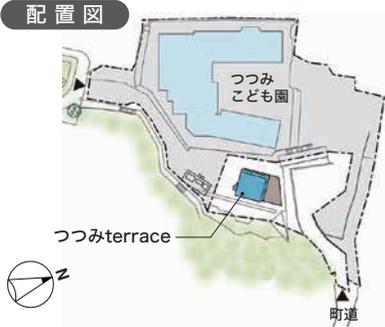
子どものための空間づくりにとて熱心な御施主様と共に、設計・工事監理を行わせていただき、工事関係者の皆様や地域の皆様のご協力のもと、「つつみterrace」が無事竣工いたしました。吉里吉里地区の素晴らしい環境を活かしながら、子どもたちが安心して過ごせるよう細部まで検討し、かつ、より良いデザインとなるよう、皆様と打合せを重ねさせていただいた結果と存じます。この場を借りて深く感謝申し上げます。

これからの未来を担う、大槌町の子どもたちの成長や経験、生活の手助けになるような施設となれば幸いです。堤福祉会様による地域福祉の益々の御発展をお祈り申し上げます。

地図



配置図

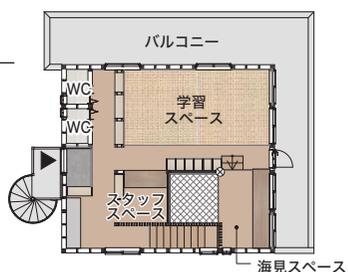


平面図

1階



2階



「幼保連携型認定こども園つつみこども園」については、2018年9月号で特集させていただきました。



Always with a SMILE!

2024
4月号
Vol.229

「子ども第三の居場所」岩手県初!!



社会福祉法人 堤福祉会

つつみterrace



子ども
第三の
居場所

KUJI ARCHITECTS STUDIO
株式会社 久慈設計
（一級建築士事務所）

KUJI HIGASHINOH ARCHITECTS STUDIO
株式会社 久慈設計 東日本
（一級建築士事務所）

บริษัท กุจิ เซคเค ไทย จำกัด
KUJI SEKKEI THAI CO.,LTD.
Bangkok

Always with a SMILE!

発行責任者 株式会社 久慈設計
住所 / 岩手県盛岡市紺屋町3-11
TEL / 019-624-2020

公式HP
トップページ



公式HP
リクルートページ



「ひとつ、ひとつ、実現する ふくしま」

久慈設計は「Fukushima with a SMILE!」を通じて福島県の魅力を発信していきます。



船越湾が一望できるテラス



子ども第三の居場所 つづみterrace(テラス)

- 施 工 地 / 岩手県上閉伊郡大槌町吉里吉里二丁目地内
- 竣工年月 / 令和6(2024)年2月
- 敷地面積 / 978.81㎡
- 延床面積 / 92.74㎡
- 構 造 / 木造2階建て



上棟式



開所式

海の上のこども食堂

社会福祉法人堤福社会は、昭和51(1976)年の創立以来48年にわたり、地域福祉の充実と発展に大きく貢献してまいりました。創立当時の園舎を平成30(2018)年に建て替えた「幼保連携型認定こども園 つづみこども園」の敷地内では、これまでプレハブ建物において「つづみキッチン」を開き、地域の子どものために食事の提供を行ってきました。

昨今、家庭が抱える困難が複雑・深刻化し、地域のつながりも希薄になる中、子どもが孤立するケースは少なくありません。

すべての子どもたちが未来への希望を持ち、安心して過ごすことができる、地域のハブとなる居場所を目指し、この度、日本財団「子ども第三の居場所」の助成事業に採択され、**岩手県初**のコミュニティモデルとして「つづみterrace」が整備されました。



木の温もりを感じる広間



カフェのようなキッチン



船越湾が広がる特等席(海見スペース)



子どもたちの秘密スペース(デン)



学習スペース



子どもが使い易い手洗いコーナー



みんなで共有できる読書コーナー



開放的な吹き抜け

「子ども第三の居場所」とは

すべての子どもたちが将来の自立に向けて生き抜く力を育むことを目的として、日本財団が中心となって2016年より全国に開設しています。「子ども第三の居場所」では、親の共働きによる孤立や孤食、各々のおかれている状況によりさまざまな困難に直面している子どもたちを対象に**放課後の居場所を提供**し、食事、学習習慣・生活習慣の定着、体験機会を提供しています。現在、全国に約200ヶ所設置され、子どもたちの生活を見守ります。

子どもが過ごせる秘密基地

海と山が織り成す「リアス式海岸」ならではの景色や環境を取り込んだ空間構成、いくつかの平地を経て高い斜面の上にある本敷地のように、建物の中にも複数のレベルの**スキップフロア**を設けました。海が望める立地を活かして豊富に設けた開口部により、海の色が室内へも広がります。狭い空間のデンや吹抜のネット遊具など、家では体験できない場所を設け、子どもにとって刺激となる計画としました。一方で、子どもたちが落ち着いて過ごせる家庭的な雰囲気や住宅スケールとなるような、子どものための、学校でも家でもない「第三」の居場所づくりを行いました。